

令和7年度丹波篠山市学力・生活習慣状況調査および、全国学力・学習状況調査の結果の概要

丹波篠山市学力・生活習慣状況調査および全国学力・学習状況調査は、各教育委員会や各学校が児童生徒の学力や学習状況を把握し、学習指導や生活指導の改善等に役立てることを目的として実施されています。

以下に、今回の調査についての本校の分析結果をまとめました。この調査によって測定できるのは学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことを踏まえつつ、保護者・地域の皆様の理解と協力のもとに適切に連携を図りながら一層の指導上の工夫・改善に努めます。これからも本校の教育活動に対してご支援いただければ幸いです。

調査について

○丹波篠山市学力調査

- ・実施日 令和7年4月17日(木)
- ・対象学年 1年生・2年生
- ・調査教科 国語、数学(算数)
- ・*1年生は小学校までの学習内容
- ・2年生は中1までの学習内容

○丹波篠山市生活習慣状況調査

- ・実施日 令和7年5月(日時はクラスにより異なる)
- ・本校対象学年 全学年

○全国学力・学習状況調査

- ・実施日 令和7年4月16日(水), 17日(木)
- ・対象学年 3年生
- ・調査教科 国語、数学(17日) 理科(16日)
- ・*中2までの学習内容 理科はCBT調査
生徒質問紙調査

1年生国語

領域1:言葉の特徴や使い方に関する事項

領域2:情報の扱い方に関する事項

領域3:我が国の言語文化に関する事項

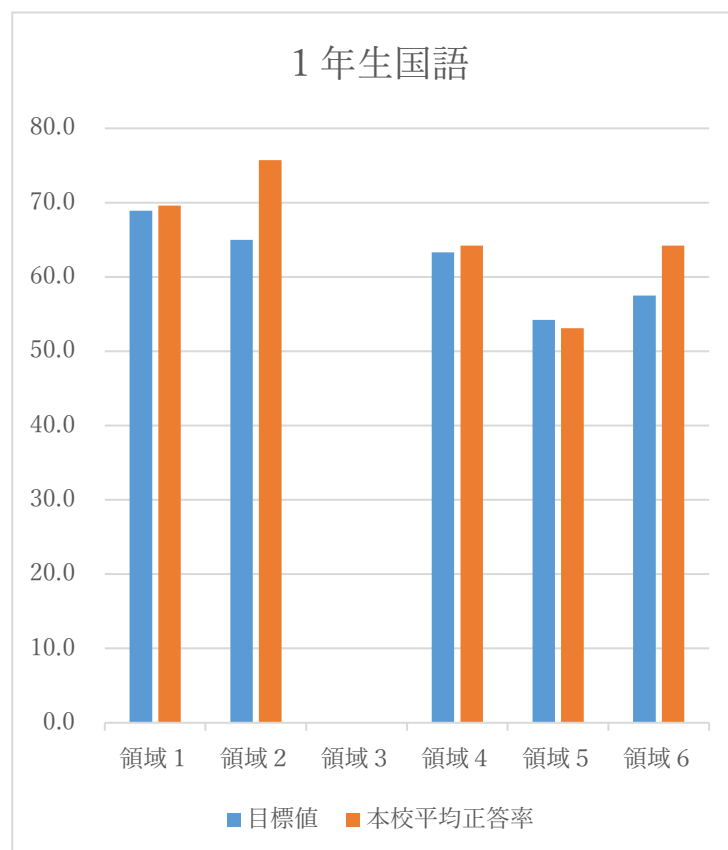
(今回は該当問題なし)

領域4:話すこと・聞くこと

領域5:書くこと

領域6:読むこと

1年生の国語においては、観点別・領域別ともに一定の成果が見られました。「知識・技能」「思考・判断・表現」の両観点で目標値を上回り、領域別では特に「情報の扱い方」や「読むこと」では高い正答率を示し、文章理解力や情報整理力の定着が確認されました。一方で、「書くこと」では目標値を下回り、文章構成力や話の意図を捉える力に課題があります。文法や文学的読解においても一部に誤答傾向が見られるので、語句の関係性や心情理解への指導に工夫が必要です。今後は、既存の読解力を土台に、表現力や傾聴力の育成に力を入れ、総合的な国語力の向上を図ります。



1年生数学(算数)

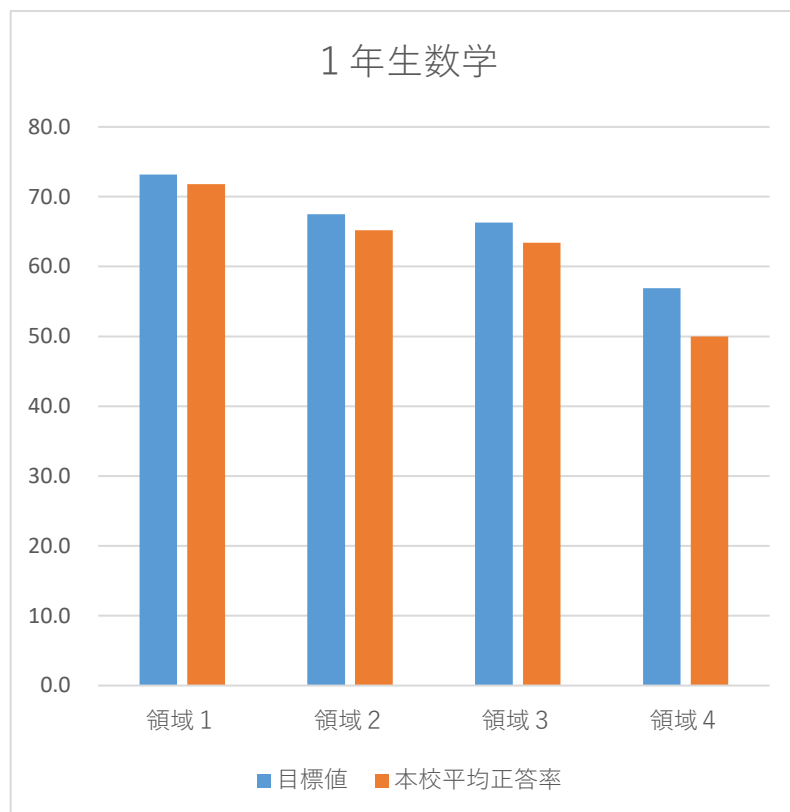
領域1:数と計算

領域2:図形

領域3:変化と関係

領域4:データの活用

1年生数学では、基礎的な計算力や図形の理解には一定の安定した力が見られる一方で、統計的な思考力や情報の読み取りに関しては、課題が見られました。特に、多くの生徒が数学に対して苦手意識を抱いている現状を踏まえると、今後は個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進する複線型授業を進めていきます。そのために、ICTの活用による学習履歴の可視化や、理解度に応じた教材提示を行うとともに、少人数指導によりきめ細かな支援を行っていき、生徒一人ひとりの学びを支えて数学的思考力の育成を図っていきます。



2年生国語

領域1:言葉の特徴や使い方に関する事項

領域2:情報の扱い方に関する事項

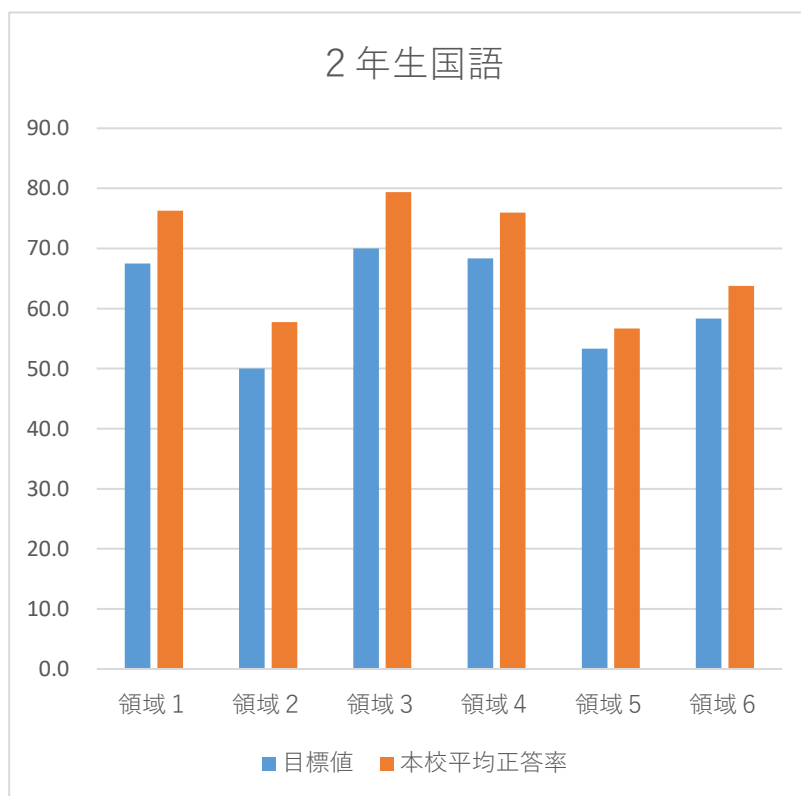
領域3:我が国の言語文化に関する事項

領域4:話すこと・聞くこと

領域5:書くこと

領域6:読むこと

2年生の国語は、前年度よりも平均正答率が上がり、目標値を上回る結果でした。「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」を筆頭に、全ての領域で全国平均を上回りましたが、「書くこと」は苦手に行っている生徒も多くいます。今後は、現在行っている毎週の作文活動を継続しつつ、筆者の考えや本文から読み取れること等を記述する機会を増やしていきます。また、自分の思いを他者に伝える活動を通じて、自分の思いを表現できる場を多く設けていき、より深い学びを進めていきます。



2 年生数学

領域1:数と式

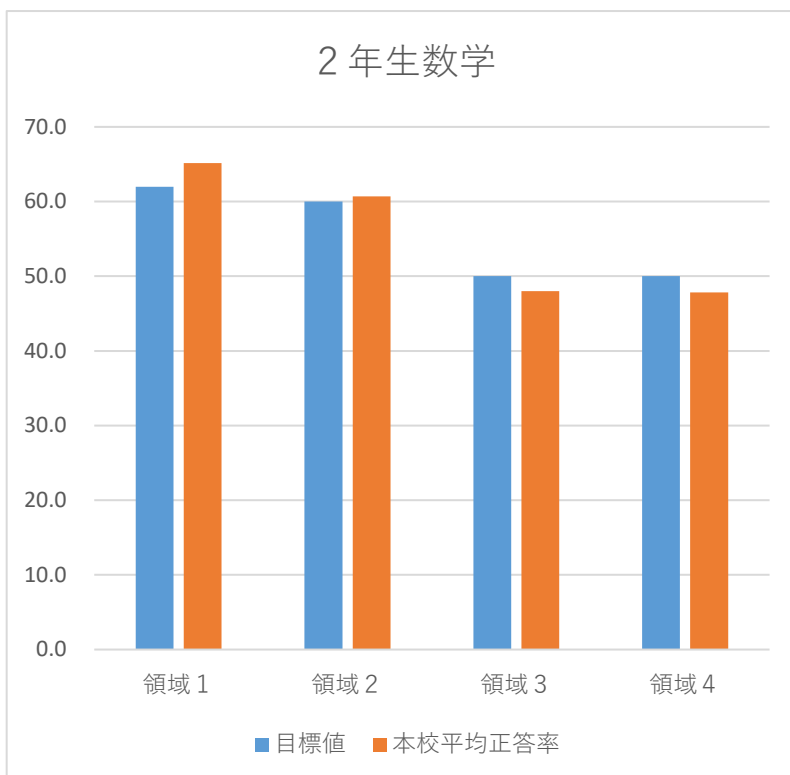
領域2:図形

領域3:関数

領域4:データの活用

2年生数学では、「数と式」が目標値より、3ポイント上回っており、基礎となる計算する力がおおむね身についてきていると考えられます。しかし、どの領域においても、説明問題や、根拠となる事柄を求める問いに対して、正答率が下がっています。関数の立式やグラフの作成などデータの活用にも課題がみられます。

今後は、基礎となる計算練習を継続して行うとともに、グループ活動やペア学習を通して、説明する力を培っていくことで応用力を高めていきます。



3年生国語

領域1:言葉の特徴や使い方に関する事項

領域2:情報の扱い方に関する事項

領域3:我が国の言語文化に関する事項

(今回は該当問題なし)

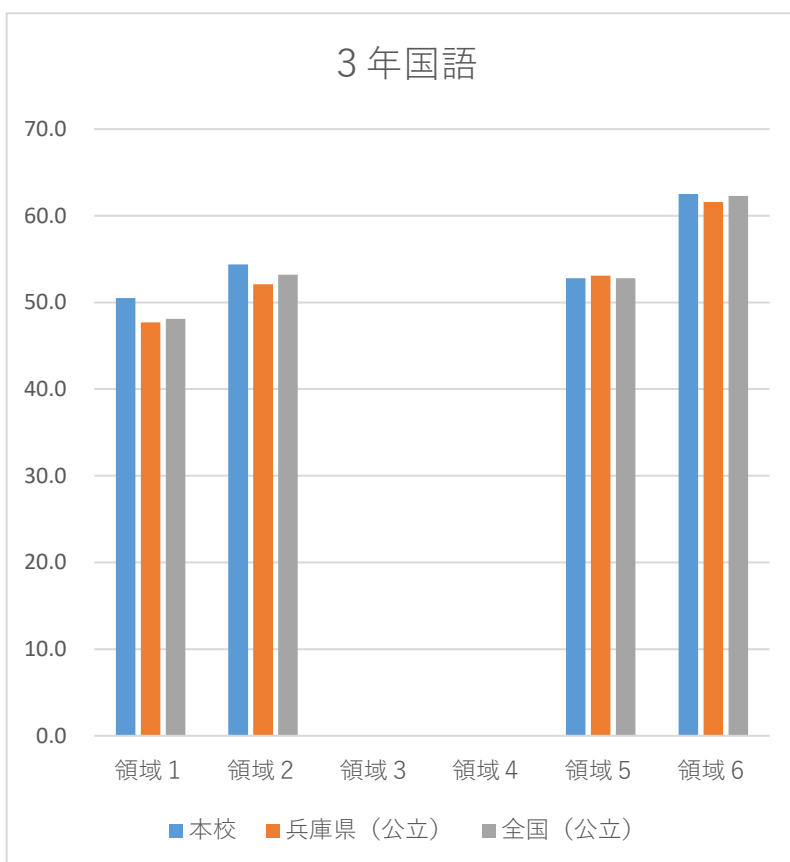
領域4:話すこと・聞くこと

(今回は該当問題なし)

領域5:書くこと

領域6:読むこと

3年国語は、概ね全国平均と同等の正答率で、これまで課題であった漢字等の知識に関する問題でも改善が見られることから、日ごろの学習の成果が表れていると言えます。国語の学習に関してポジティブな意識を持っている生徒が多く、学習に意欲的に取り組んでいることが学習成果を下支えしていると思われます。今までの課題である総合的に書くことについては、条件に合わせて正確かつ分かりやすく書く活動を積極的に取り入れ、自信をもって書ける土台作りを進めます。



3年生数学

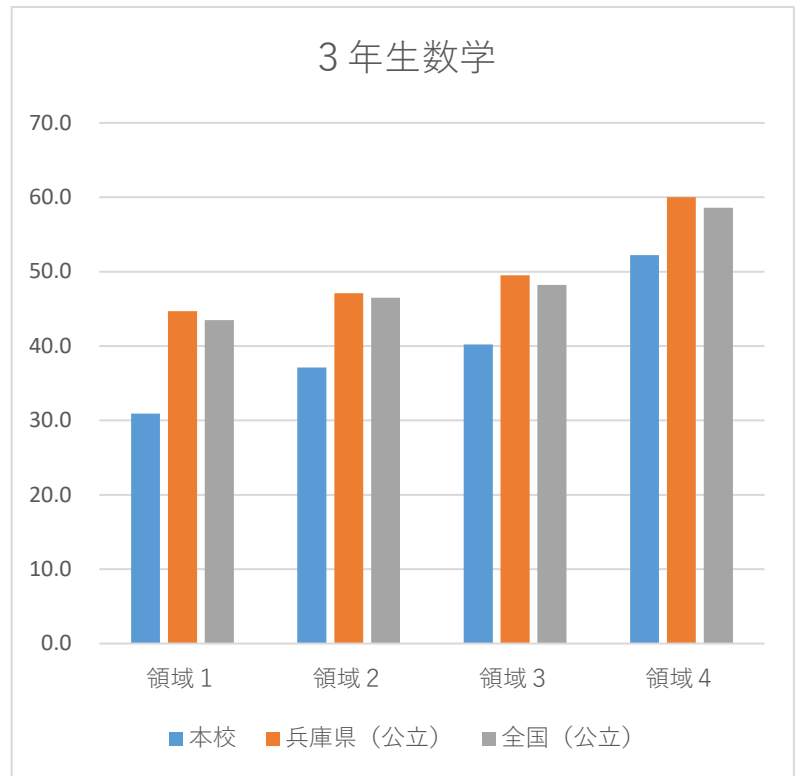
領域1:数と式

領域2:図形

領域3:関数

領域4:データの活用

全体として、全国平均を下回る正答率となっていますが、「関数」について「ともなって変わる」ということをグラフ等から考えることを重視したことにより、必要な情報を読み取ることはできるようになってきています。「データの活用」についても、起こりやすさについての理解は深まっています。その反面、文字の式の取り扱いについて定着できていないところが多く見受けられ、学習内容が多くなるにつれて、処理が確実に行えないようになってきているように思われます。アンケートからは、数学の学習について肯定的な回答が全国と比べて非常に多く見られます。意欲的な部分を生かし、数式の処理などの基礎学習を地道に継続して行い、定着を認めて、自信を持たせていきます。



3 年生理科

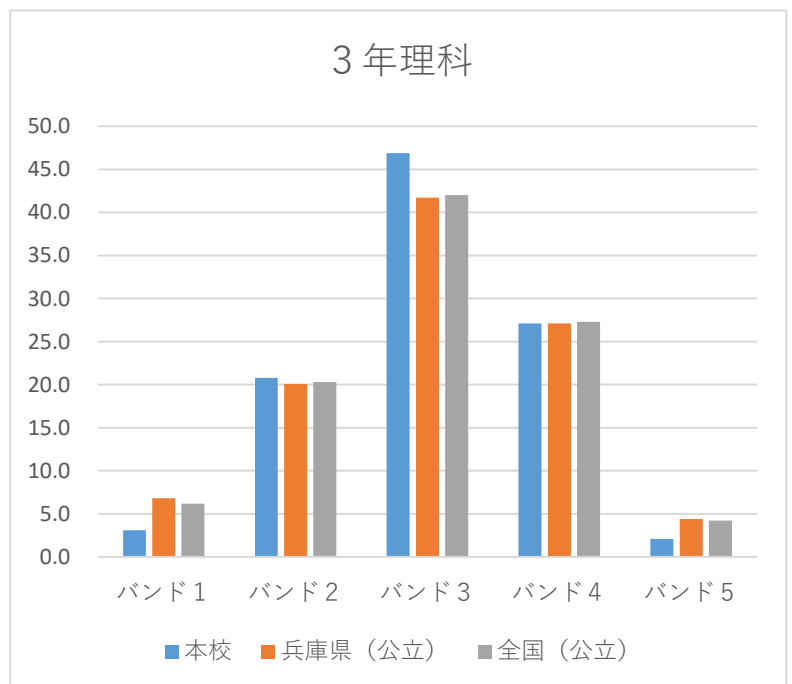
IRT スコアを 5 つに分けたバンドでの数値で、3 が基準、5 が最も高いバンドです。IRT スコアは問題の難易度を加味したスコアで、難易度が高い問題に正答した場合は高いスコア、難易度が低い問題に誤答した場合は低いスコアが算出されます。

総合小問題 (6 題)

エネルギー領域の電気回路実験 (2 題)

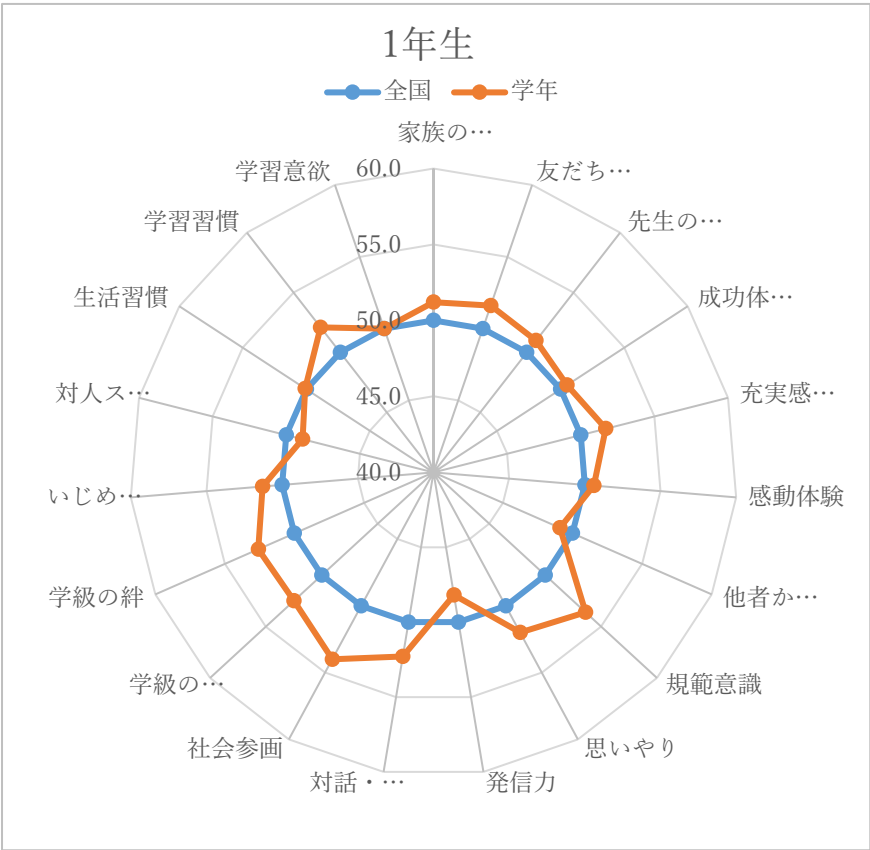
生命領域の植物スケッチ (2 題)

正答率が全国と兵庫県を上回ったのは総合小問題 3 題 (粒子 (探究の過程の振り返り)、地球 (地層)、生命 (生命を維持する働き) の領域) とエネルギーの領域 1 題 (電気抵抗の知識が概念



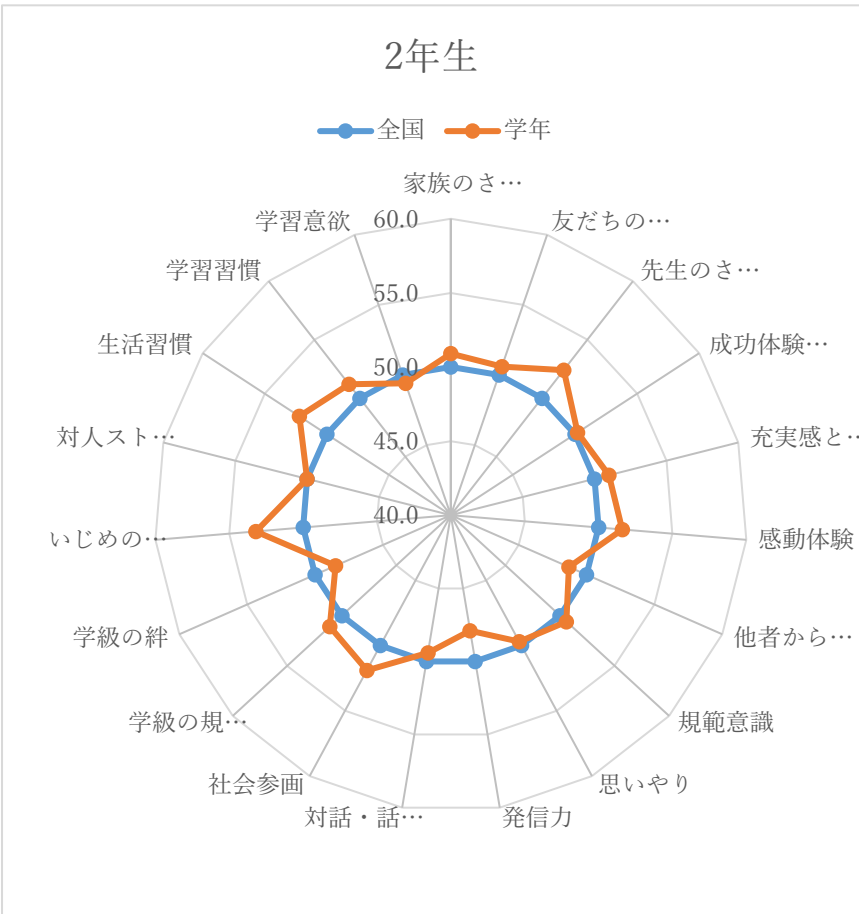
として身につけているか)でしたが、それ以外は下回りました。また、全国正答率が60%以上であったエネルギーの領域 (電気抵抗の知識が概念として身につけているか) の1題、総合小問題の2題 (粒子 (探究の過程の振り返り)、生命 (植物スケッチに関する知識と技能) の領域) の計 3 題は本校も同じでしたが、総合小問題の粒子の領域 (実験、元素記号) の 2 題とエネルギーの領域 (回路の電流・電圧と抵抗や熱量) の 1 題の計 3 題はかなり下回っていました。全体的に基礎的事項は定着しているので、それを実感させて自信を持たせ、苦手な分野は再度復習していきます。今後の授業では小集団で進める実験を増やし、仮説の設定、結果の予想、考察と新たな疑問へのアプローチなど、単元の理解だけでなく実生活へのつながりとなるように、理解を深めさせていきます。

1年生 市生活習慣状況調査 *全国平均を50として結果を標準化しています



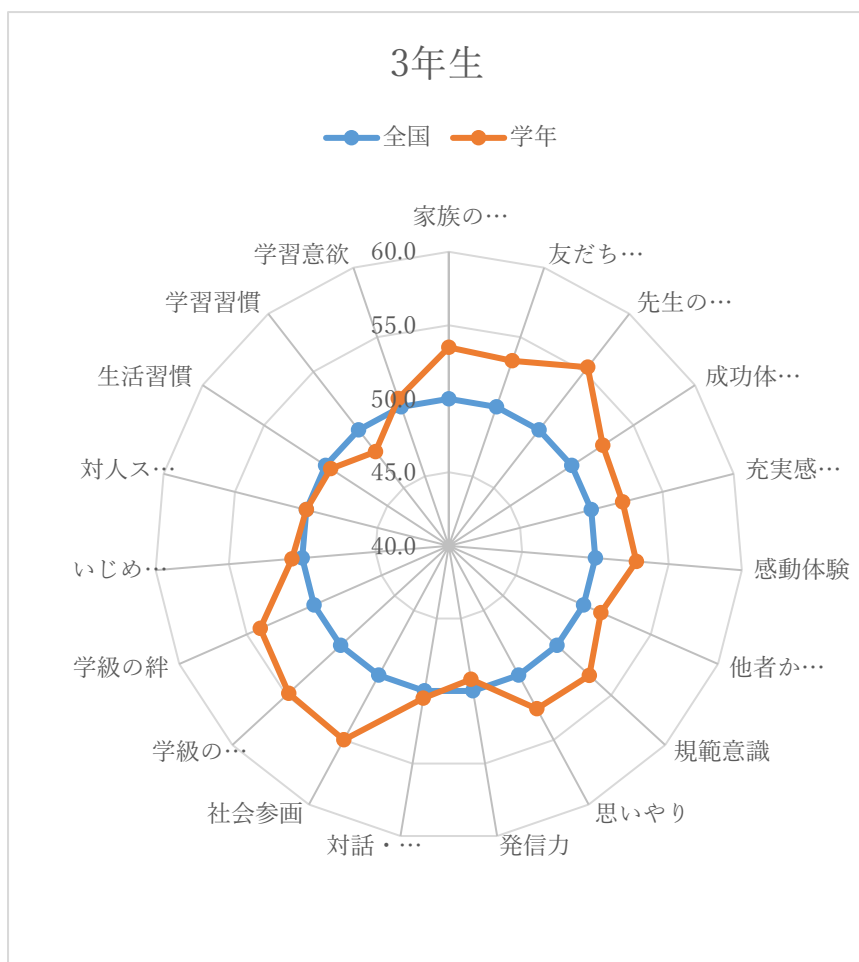
1年生は多くの項目で全国平均と同程度か上回る結果でした。生活習慣の定着や友人関係の安定により、安心して学校生活や学習に取り組める環境が整っていると考えられます。他者からの評価や発信力がやや弱いので、自信をつけて積極的に物事に取り組めるように支援をしていきます。授業への落ち着いた取り組み姿勢や学校行事への高い参加率から、主体性や協働性も育まれており、これらの成果は教職員の丁寧な指導と家庭・地域との連携の結果だと考えられます。今後は、定着した生活習慣や協働的態度を土台に、さらに思考力や表現力を高める指導を展開し、学びの質の向上を図っていくとともに心身の健全な成長に取り組んでいきます。

2年生 市生活習慣状況調査 *全国平均を50として結果を標準化しています



2年生は、全ての項目で概ね全国と同程度でした。特にいじめのサインや先生のささえ、生活習慣などは全国平均を上回る結果でした。規範意識をもって、周囲のささえに感謝しつつ協力しながら温かい集団をつくろうとしていることがうかがえます。

一方で、学習意欲や学級の絆、他者からの評価や発信力はやや低い結果でした。学習がどんな成果につながるかの見通しが持てないことや、自信のなさが意欲の低下につながっているのではないかと思います。教科係を中心に家庭学習についても意見を出し合い、他人を知り自分を知ることによって自信・意欲につなげていきたいと考えています。



3年生は多くの項目で全国を上回る結果でした。特に家族、友達、先生の支えを感じて生活できているところが良いところです。また、社会参画、学級の規範意識、学級の絆も高く、人と関わりあって前向きに楽しく生活しています。

一方、発信力、生活習慣、特に学習習慣は全国よりも低い傾向にあります。昨年度よりも発信力と生活習慣についてはやや下がっているため、これらの3項目を関連付けて指導し、生徒の気づきや行動の変化につなげていきます。教師との信頼関係を基盤にし、進路決定期、受験期に向かう前に粘り強く学習に向かうことを発信していきます。また、この学年の強みである学級や学年全体のつながりを学習に向かう雰囲気作りに生かしていきます。

3年生は全国学力・学習状況調査でも質問紙調査がありました。生活習慣に関する質問内容は市の調査とは若干違いますが、その結果も市の調査に照らし合わせると概ね同じ結果でした。多くの項目で肯定的な評価が全国や兵庫県の平均を上回っています。全国の数値と比較して、全体的に3年生の良いところは向社会性と自己有用感です。「先生が良いところを認めてくれていると思う」については70%と高く(全国46%)、いじめを許さない気持ち90%(全国77%)、友達関係に満足している69%(全国56%)学校に行くのが楽しい62%(全国45%)も特に高い値です。道徳の授業に対しても67%と意欲的で(全国48%)、他の質問においても自分を肯定的にとらえ、周りの人と信頼感をもって生活しています。

課題は学校の時間以外の学習時間で、平日2時間以上学習する生徒は11.6%(全国30.8%)、全くしないのは13.7%(全国7.7%)と学習に時間をかけない生徒が多く見られます。一方で授業や学習は楽しいと感じているので、わかり、できる楽しさや授業の学びを定着させる学習習慣などが身につかないようです。残りの中学校生活で、今後社会に出ていくために必要な人としてのありようについては自信を持たせてさらに伸ばしながら、基礎学力や学習内容の定着のために、家庭学習と学校での学びをつなげる工夫をしながら意欲を高めていきます。

*平日の学習時間については全国調査と市の調査では結果に少し差がありましたが、調査時期や質問方法等の違いもあるので、大まかな傾向としてご理解ください。

学力向上について

本校では「授業スタンダード」を定め、特に対話を重視して個と集団を思考が行き来する「主体的・対話的で深い学び」を進めています。今回の調査ではどの学年も概ね目標値や全国平均と同程度の状況でしたが、苦手な分野や教科もあります。少しずつ学力の定着が進んでいる面も見られますので、今後も継続して指導をしていきます。自分の考えなどを記述したり、発信したりすることに課題がみられるので、それらの機会を増やすとともに各学年各教科の実態に応じて更に工夫した授業づくりを進めていきます。加えてICTの活用や授業のユニバーサルデザイン化を一層進めて一人一人の力を更に伸ばしていけるように取り組んでいきます。

生活習慣等について

どの学年も全国平均と同じか上回る項目が多く、普段の学校生活でも見られるように規則正しく落ち着いて前向きに生活ができている様子が表れていました。保護者の皆様や地域の皆様の支えがあることにも感謝いたします。今のこの状態を礎として、様々な活動を通じて学校教育目標の「未来を切り拓く基礎力・思考力・実践力を持ち、支えあい学びあう生徒の育成」を実現できるようにこれからも取り組んでいきます。

課題はどの学年も家庭での学習時間が全国平均より短いこと、SNSやインターネットの利用、ゲームや動画の視聴時間が長い傾向であることなどがあげられます。これらは互いに関係していることもあると思われます。学校でも様々な面から指導をしていますがなかなか改善にいたっていません。トラブルにつながる危険性が高まったり、生活習慣や学習面に悪い影響が出たりすることが考えられるので、生徒自らが好ましい生活習慣を築けるように今後も指導を続けていきます。あわせてご家庭での過ごし方に関わることで、保護者の皆様にもお子様と話し合っていただき、より良い生活につながりますようご協力をお願いいたします。